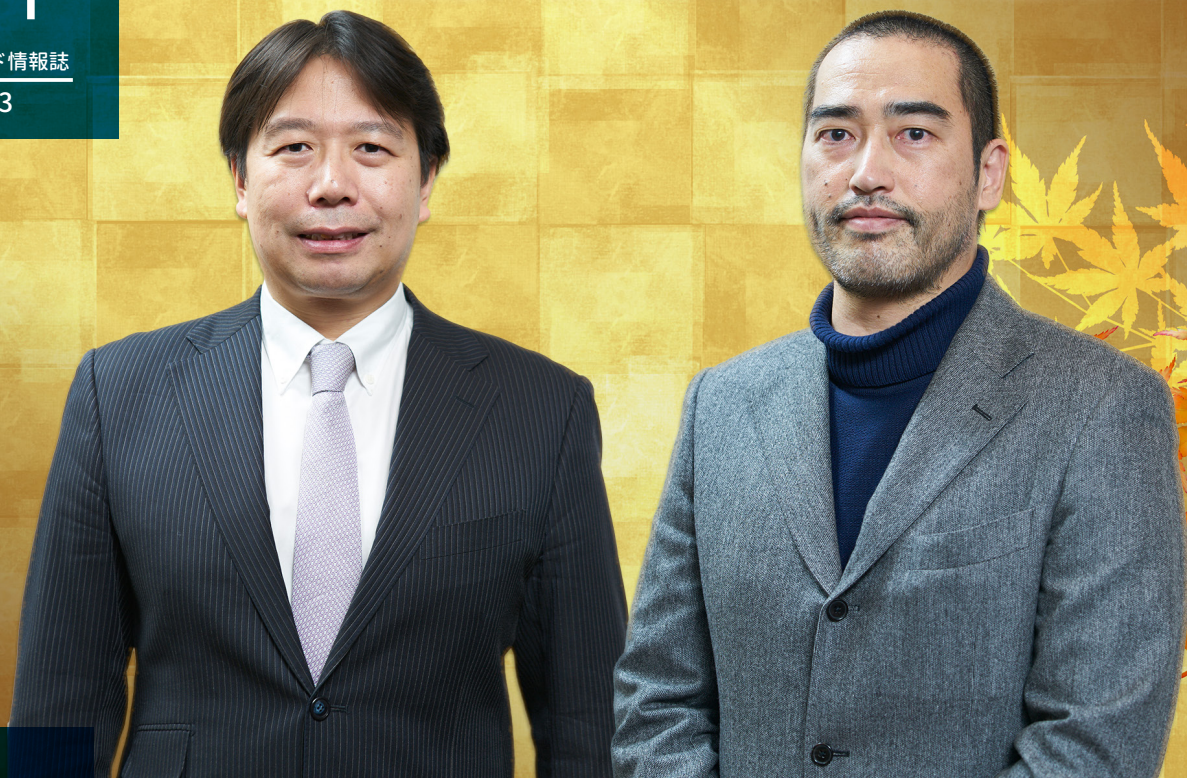




INDEX

01

医学部医学科外科学系
准教授
酒井大輔／
Daisuke Sakai

02

現代教養センター
教授
田中彰吾／
Shogo Tanaka

03

松前賞学術部門
過去の受賞者

学校法人東海大学は、2019年1月16日に2018年度「松前重義賞」授与・伝達式を開催した。「松前重義賞」は、創立者の名前を冠した賞であり、建学の精神に基づき、文化・スポーツ・学術研究の3分野において、顕著な成績（業績）を収めた学園の学生、生徒、児童、園児、卒業生及び教職員に対し、その成績（業績）をたたえ表彰するもの。今回は各賞合わせて586の団体と個人が表彰された（2019年1月16日時点）。授与・伝達式は、東京・霞ヶ関の東海大学校友会館にて、松前達郎総長をはじめ、学園各教育機関の学長、校長らが多数出席して行なわれた。

「学術部門」は1991年度に第1回の授与があり、第20回（2010年度）からは、松前重義学術賞と松前重義学術奨励賞の2種類に分けて授与を行なっている。これまでの受賞者は、第28回（2018年度）の2名を含め、延べ75名に上る。

本号では、2018年度の松前重義学術賞を受賞した2名の業績と、受賞にあたってのコメントを紹介する。



2018年度 松前重義学術賞

医学部医学科外科学系
准教授

酒井大輔／
Daisuke Sakai

「脊椎疾患に対する病態解明と再生医療の実現」

現代教養センター
教授

田中彰吾／
Shogo Tanaka

「身体性人間科学の構想と展開」



2019年1月16日開催 2018年度「松前重義賞」授与・伝達式

酒井大輔／Daisuke Sakai
医学部医学科外科学系 准教授

「脊椎疾患に対する病態解明と
再生医療の実現」

● ● ●

脊椎疾患の病態解明と治療法の探索に従事し、椎間板変性に対する幹細胞移植療法の有効性の報告や、椎間板の加齢と変性の主な理由の解明など、多くの成果を挙げている。研究で得られた知見の臨床現場への還元にも熱心であり、本邦初の椎間板再生医療の実現に中核的役割を果たした。



受賞にあたって

椎間板変性は、脊柱側弯症や椎間板ヘルニアなど、多くの脊椎疾患の主な原因ですが、現状では予防方法がなく、治療方法も手術などの対症療法に限られます。整形外科では20年以上にわたり、椎間板変性の病態の解明と、椎間板の再生による新たな医療の創出に取り組んできました。私の指導教官でもあり上司でもある持田譲治名誉教授が、椎間板の変性抑制・再生についての研究で2013年に松前賞を受賞されています。

椎間板変性を研究する上でハードルとなっていたのは、病気の原因となる、組織の老化の理由が分からなかったことでした。過去には主に椎間板の中心にある髄核が研究されてきましたが、私は髄核の周りを取り巻く細胞や、椎間板変性の結果として起こる脊柱側弯症や脊柱管狭窄症などの病態にも研究対象を広げ、より広く深い研究を心掛けました。研究のノウハウは既にあったので、他の細胞や病態にそれを適用したことで、比較的早く成果を挙げられたのだと思います。

東海大学のありがたい点は、研究分野や所属機関の壁を越えた研究協力や、産学連

携の重要性を理解いただけるということです。現在取り組んでいる脊柱側弯症の原因解明では、学内の体育学部やスポーツ医学研究所と共同で臨床研究を行っています。研究シーズの実用化にはアカデミアの力だけでは難しいこともありますが、日本医療開発研究機構（AMED）から支援を受け、学内の先進生命研究所、総合医学研究所並びに製薬企業と協力して、新たな創薬の開発研究も進めています。アカデミアの研究者には医療現場のニーズをよく知っているという強みがありますので、開発のブロである製薬企業との緊密な連携により、莫大な研究費を投じてやっと1つの新薬が世に出るという今までのやり方とは違う、創意と工夫でより安価な薬を提供できる体制を整えるのが今後の目標です。

また、私は研究者であると同時に、整形外科の脊椎外科医として、臨床治療にもあたっています。専門としている脊柱側弯症は、思春期に多く発生しますが、早期診断が難しく、手術などによる患者さんへの負担も大きい病気です。側弯症の原因は複数ある可能性が高く、完全に突き止められてはいませんが、椎間板の研究を通じて原因を解明し、早期診断、早期治療に繋がたいと考えています。

略歴

2005年3月 東海大学大学院医学研究科博士課程修了、博士（医学）
2005年4月 東海大学医学部外科学系整形外科助教
2007年4月 同講師
2012年4月 同准教授
2013年4月 カリフォルニア大学サンディエゴ校整形外科、およびレイディ小児病院留学
2014年4月 東海大学医学部外科学系整形外科准教授に復職 現在に至る





受賞にあたって

身体性人間科学と言っても、ピンとこない方も多いかもしれません。従来の心理学では、心身二元論という哲学の考え方に基づいて、体のことを除外して心のことだけを考えます。しかし現実には、体から分離した心の働きは存在しません。身体性人間科学では、体を無視せず、心と体をトータルに理解しようとしています。

私の研究では、物の見方を従来のものからどう変えるべきかという哲学的な議論を行ったうえで、新しい物の見方に基づいて、実験や調査を行います。理学系の研究なら新しい事実や法則を発見することがインパクトになりますし、工学系の研究なら新しい技術開発に貢献することが成果になりますが、私の場合は新たなパラダイムにもとづく研究分野を切り拓いて初めて成果に繋がるので、短期的なスパンでは目に見える成果が出せず苦しむ時期もあります。しかしその分、30年、50年というスパンで続けられる、息の長い研究とも言えます。

体と心の関係を示す実験を1つ紹介しましょう。非言語によるコミュニケーションの実験で、2人の被験者に無言のまま絵を描いてもらいます。最初に1人が途中まで描いて相手に渡し、次に相手が少し描きま

す。紙を往復させながら、交代で描き足していきます。自分がどこでやめて渡すかは、阿吽の呼吸で相手にも何となく伝わるのですが、この「阿吽の呼吸」の正体を確かめるために、様々な角度から被験者の行動をビデオに収めました。その結果、スムーズに描けた2人組では、頷く、身を乗り出すというような動作が互いにシンクロしていました。また、実験後にコミュニケーションの成立度を別々に、主観的に評価してもらうと、シンクロ率の高い事例では成立度の評価も高いのです。従来の心理学では、意思疎通とは、体の奥に隠れた相手の心に入り込むことだと理解されてきました。しかしこの実験からは、自他の身体のシンクロ具合が、相互理解を反映している可能性が示唆されます。

東海大学は建学の理念に文理融合を掲げており、私自身も文と理の狭間で研究してきました。心と体のトータルな理解は、東海大学が力を入れる、QOLの向上にも直結するはずです。今は自分の個人的なネットワークの中で、学内のさまざまな先生方と共同研究していますが、もう少し組織化して、多角的かつ大きな視点で、人間研究ができる施設を作りたいです。そのようなチームと組織を作って、いずれ大きな外部資金を獲得したいと思います。

略歴

2003年9月 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻博士課程修了、博士（学術）

2004年4月 東京理科大学非常勤講師

2005年4月 東海大学総合教育センター講師（開発工学部沼津教養教育センター兼務）

2011年4月 同准教授

2013年10月 ハイデルベルク大学病院社会精神医学センター客員研究員
（東海大学国内外長期研究留学研究派遣計画による派遣）

2015年4月 東海大学総合教育センター教授

2016年4月 東海大学現代教養センター教授 現在に至る

*2016年8月～2017年8月 ハイデルベルク大学病院社会精神医学センター客員研究員（科学研究費補助金・国際共同研究加速基金による派遣）

田中彰吾／Shogo Tanaka

現代教養センター 教授

「身体性人間科学の構想と展開」

● ● ●

心の科学に身体性を取り戻し、心身全体を論じる「人間科学」としての新たな研究分野「身体性人間科学」を構想した。自己意識や他者理解など、人間理解の根幹にかかわる現象を主題としており、「身体化された心」のパラダイムを追求する日本有数の研究者として、国際的な評価も高い。



松前賞学術部門 過去の受賞者

2017年度

【松前重義学術奨励賞】
工学部機械工学科
准教授 木村啓志

医学部医学科内科学系
講師 駒場大峰

2016年度

【松前重義学術賞】
文学部歴史学科西洋史専攻
教授 三佐川亮宏

医学部医学科基盤診療学系
教授 稲垣豊

【松前重義学術奨励賞】
農学部バイオサイエンス学科
准教授 安田伸

医学部医学科基礎医学系
講師 石井恭正

2015年度

【松前重義学術賞】
医学部医学科基礎医学系
准教授 松阪泰二

【松前重義学術奨励賞】
工学部動力機械工学科
講師 長谷川真也

医学部医学科基礎医学系
准教授 大塚正人

2014年度

【松前重義学術賞】
医学部医学科基礎医学系
教授 秦野伸二

健康科学部看護学科
教授 石野（金児）知子

【松前重義学術奨励賞】
医学部医学科専門診療学系
准教授 馬淵智生

2013年度

【松前重義学術賞】
工学部建築学科
教授 岩田利枝

医学部医学科外科学系
教授 持田譲治

【松前重義学術奨励賞】
理学部化学科
講師 富田恒之

体育学部
スポーツ・レジャーマネジメント学科
准教授 松浪稔

医学部医学科基盤診療学系
准教授 八幡崇

2012年度

【松前重義学術奨励賞】
農学部応用植物科学科
准教授 星良和

医学部医学科専門診療学系
助教 中川喜博

2011年度

【松前重義学術賞】
医学部医学科基礎医学系
教授 猪子英俊

【松前重義学術奨励賞】
医学部医学科基礎医学系
講師 阿部幸一郎

医学部医学科外科学系
助教 新倉直樹

2010年度

【松前重義学術奨励賞】
情報デザイン工学部情報システム学科
准教授 中島孝

他 50名

（所属・資格については受賞当時）